

社会にインパクト与える仕事を

日本のヘルスケア 底上げしたい

MRからコンサルへ異例の転身

ドイツでグローバルファーマへの魅力や憧れを感じた幼少期の経験が、人の役に立ちたいという気持ちを後押しして薬学部への進学を決めた。IQVIAジャパングループでリアルワールドエビデンス事業の部門長を務める松井信智さんは、そう話す。東京理科大学薬学部を卒業し、薬剤師免許を取得。製薬企業でMRを経験した後、中小企業診断士の資格を取得してコンサルティングの世界に飛び込んだ。現在はリアルワールドデータを活用したソリューションの提供やコンサルティング事業を展開する事業部のリーダーを務めており、異色のキャリアを積み重ねてきた。松井さんが目指すのは、日本のヘルスケアの底上げだ。信条としている社会的インパクトを与える仕事を通じて、「社会貢献することが次のステップ」と意気込みを語る。

IQVIAジャパングループ
松井 信智さん

松井さんは、1977年1月12日生まれの43歳。小学校卒業までの3年間をドイツで過ごした経験がある。ドイツ在住の頃は、病気になると日本の薬局を意味する「アポテケ」と呼ばれる場所で医薬品を調剤してもらい、病気や薬の相談にも乗ってもらっていたという。また、ドイツに数多くあるグローバルファーマが身近に感じられる環境であったことから、「グローバルに医薬品を展開することに漠然と凄さや魅力を感じた」と話す。

中学校への進学と同時に日本へ帰国した。高校生になって「人の役に立てる仕事がしたい」と強い志を抱いていた松井さんにとって、ドイツでの経験が進路を選択する上での基軸となった。いつしか松井さんの中には、新薬開発によって人の役に立つという思いが生まれた。松井さんは、「新薬を開発すればジェネラルに、幅広く多くの人の役に立てる」と考え、東京理科大学薬学部に進学した。



ドイツ在住時の経験が原点

学生の頃は、奨学金だけでは足りない生活費を稼ぐため、居酒屋などでのアルバイトに忙殺された時期もあった。京都から上京してきたため、慣れない東京での生活やアルバイトに追われる日々によって

学業との両立は難航した。薬剤師国家試験の模擬試験では「全国ワースト10に入る落第生」で、教授に呼び出されることもあった。

(8ページへ続く)



新卒生限定 10泊12日
ハワイ研修実施! 2021年
5月中旬!

関西圏を中心に全国へオレンジ薬局を展開

初年度年収 450~550万

希望店舗での勤務OK! 働き方次第で高収入も可能! あなたの頑張りを評価します!

- (株)プチファーマシスト
- (株)オレンジファーマシー
- (株)東京オレンジ薬局

全国に135店舗展開中!!

渋谷駅前店・広尾店・池袋西口店・永田町
中津店・阿倍野店・芦屋店・菊川店・北浜店

インターンシップ参加者募集

オレンジ・元気薬局

検索



薬剤師
国家試験
対策.com

薬剤師を目指す薬学生のための
国家試験対策支援サイトです



ご登録・ご利用完全無料

be89314 検索